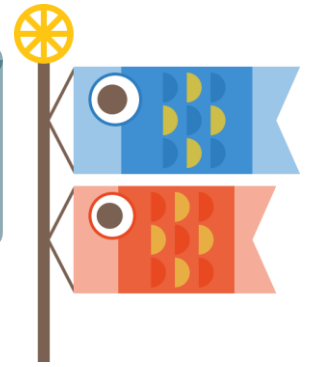


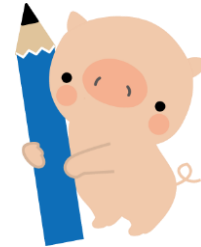
# 広島市食検だより

2016年5月 第27号



と畜場では、獣医師がウシやブタの内臓やお肉を一頭ずつ検査しています。今回は、検査でよく見つかる病気のうち、ブタの肝臓によくある病気を紹介します。

## ブタの肝臓でみられる病気

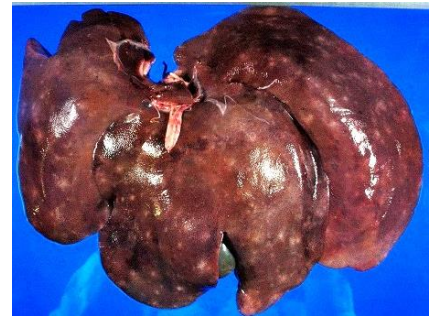


### ★寄生虫性肝炎

表面にポツポツとした白い斑点が牛乳の滴をたらしたように見えることから“ミルクスポット”とも呼ばれます。

この斑点は、豚回虫という寄生虫が肝臓の中に入ることによってできるとされています。この寄生虫に感染すると、肝臓の細胞が壊れたり、寄生虫が栄養を横取りして、ブタの成長が悪くなります。

最近は飼育管理が良くなり、以前より病気にかかるブタは少なくなりました。



### ★退色肝

正常よりも淡い色に見えるものを退色肝といいます。

消化吸収の異常や薬物中毒などが原因で、肝臓内に脂肪や糖分が異常にたまることで起こります。



### ★肝包膜炎

肝臓の表面にあるうすい膜（包膜）に、炎症が起きたものを肝包膜炎といいます。白っぽくザラザラした手触りになったり、デコボコして見えたりします。

細菌・ウイルス・寄生虫など様々な原因で起こり、心臓やおなかの中（腹膜）など肝臓の近くにある臓器が炎症したあと続いておこることもあります。



(拡大写真)



お肉は十分加熱してから  
食べましょう！！